

日本のミュージカル「誓いのコイン」 ロシアで大好評！



終演後、主役の佐伯静香に「本当に素晴らしい公演をありがとう」と声をかけるドカシエンコさん(右)＝9月19日、ロシア・オレンブルクの国立ドラマ劇場

四国の愛媛県東温市見奈良で7年目を迎えた「坊っちゃん劇場」がロシアのモスクワ市(14日)とオレンブルク市(18、19日)で初の海外公演を行なった。上演作品は2011年4月から1年間ロングラン公演したオリジナルミュージカル「誓いのコイン」。松山にあった収容所のロシア兵捕虜ニコライ(日露戦争)と日本人看護師サチの国境を超えた愛を描いた作品は、ロシアで大好評だった。

西洋列強の利害がうずまき、日本とロシアが激突する中、人として心通わせるロシア人捕虜ニコライと篤志看護婦サチ。紡がれた心を引き裂く戦争、そして革命の嵐。2人は1枚のコインに願いを込め、お城の泉に投げ込んだ。

ロシア兵をもてなした松山人は心の国境を越えられるのか!? 日露戦争時下の明治37年。日本初の捕虜収容所が松山に作られ、多くの負傷したロシア兵を迎えることになった。篤志看護婦のサチは、目に傷を負った青年将校ニコライと出会い、必死で励まそうとする。血みどろの対立を深める日本とロシア…。心の中にそびえる国境に隔たれながら、惹かれあうニコライとサチ。愛と青春の物語が城下町に息づく。

カザフスタンとの国境に面したオレンブルク州。州都オレンブルクは人口約57万人と松山市に近い規模だが、在住の日本人はわずか数人で、愛媛とは何の縁もゆかりもない。なぜ、そんな地方都市で坊っちゃん劇場が上演するのか。きっかけは一人の女性にあった。

リュドミーラ・ドカシエンコさん(45)。オレンブルク国立大で、日本文化や言語などの情報を集積・紹介する日本情報センターのセンター長を務める。2011年10月に、日本とロシアの民間交流活動の一環として、ドカシエンコさんら青年代表団が来日。案内した東京の日口交流センターが「ロシアを扱ったミュージカルを4月からやってみたいですよ」と坊っちゃん劇場を紹介した。

何げなく訪れた愛媛。そこで目にしたミュージカル「誓いのコイン」に「始まってすぐ心がわしづかみにされた」とドカシエンコさんは振り返る。

「100年以上前にわれわれロシア人に対してこんなにも日本人が心優しく、温かく接してくれていたなんて知らなかった」。ずっと涙が止まらなかった。さらに、そんなテーマのミュージカルを東京以外の地方都市で常時上演しているという事実にも衝撃を受けた。「自分が生まれ育った街の人々に絶対に見せたい。オレンブルク公演を何としてもやりたい」強い思いを抱いてロシアに帰った。モスクワの在ロシア日本大使館やオレンブルク州政府の要人に、自身が受けた強烈な印象や作品内容を懇々と説明して回った。熱意が伝わり、オレンブルクとモスクワの受け入れ態勢が整ったことで、坊っちゃん劇場がロシア公演実現に向けて大きくかじを切った。

9月19日、オレンブルク公演が終了。カーテンコールでは、観客全員が席を立ち惜しみない称賛を送った。その様子を見たドカシエンコさんは「今回をきっかけに、オレンブルク州と愛媛県が交流、友好関係を深めてほしい。姉妹関係を結べるようになるまで努力したい」と次を見据えて語る。さらに、いつまでも鳴りやまない観客の拍手に満面の笑みを見せ、言葉を加えた。

「もう私だけの願いじゃない。今回、この『誓いのコイン』を見た全員がそう思っていると確信しています」

このミュージカルは、2010年に松山城二之丸の井戸跡から発見された100年前のロシアの10ルーブル金貨に、ロシア人男性と日本人女性の名前が刻まれていたことから生まれました。

ミュージカル『誓いのコイン』の作者は、この発見の裏にあるであろうロマンチックな物語を思い描きました。

明確なことはただ一つ、この金貨が日露戦争の時代のものであるということです。当時、松山市は延べ6000人とも言われるロシア兵捕虜を受け入れました。

捕虜は、政府の方針や地元のおもてなしの心によって厚遇され、市内の自由散策や観劇、芸術工房訪問、温泉入浴や自転車競技大会への参加ができるなど、捕虜というよりむしろ松山市のお客様でした。

松山で生涯を終えた捕虜たちの墓地「ロシア人墓地」は、今でも市民らによる清掃活動が行われ、1994年にはロシアの有志から日露友好の証として、旅順攻防戦に参加して負傷し、松山で亡くなったボイスマン大佐の胸像が製作・寄贈されました。

胸像はロシア人墓地に設置され、「日露友好の架け橋」と刻まれています。

平成22年1月、松山城二之丸の井戸跡から発見されたロシアのコインにロシア人と日本人女性の名前が刻まれていることがわかった。

ロシア人は日露戦争当時、戦場となっていた中国大陸から松山に送られ療養していた俘虜、日本人女性は俘虜たちを手当てしていた日本赤十字社の看護婦だった。「誓いのコイン」は、このエピソードをもとに創作したミュージカル。

20世紀初頭に名前を刻まれたコインが約1世紀の沈黙を破り、現代に伝えようとしているメッセージとは?!